

ICT における薬剤師の役割

感染制御チーム（Infection Control Team、以下 ICT）は、感染管理を担当する医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師などで構成されています。感染管理とは、医療施設内での感染流行の予防を目的とした取り組みであり、この中で薬剤師は、主に院内における抗菌薬・消毒薬の適正使用の推進に関わっています。

<薬物血中濃度解析（TDM）>

血液中の濃度が有効域に達しない用量で抗菌薬の投与を続けると効果がないばかりか耐性菌の出現につながり、逆に有効域より高い状態が続くと副作用が発現しやすくなります。患者様に最適な抗菌薬治療を提供するために、薬剤師が血中濃度測定結果や臨床所見から解析を行い、より適切な血中濃度となるように用法・用量を設定して医師に提案しています。

<感染に関する薬剤情報提供>

医師が、各感染症領域において推奨される抗菌薬を選択できるよう、ガイドラインを参考に作成した抗菌薬使用指針を院内 ICT ホームページ（電子カルテ端末から参照可能）に掲載しています。

<抗菌薬の届出制>

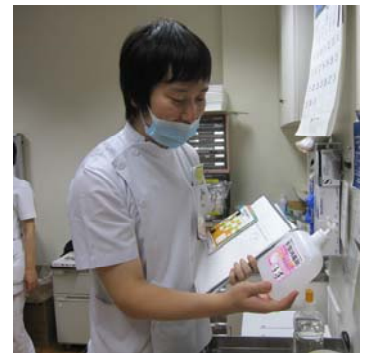
当院では抗菌薬の適正使用を目的に、一部の抗菌薬（カルバペネム系、抗 MRSA 薬）に関して、事前申請による届出制を実施しています。医師から薬剤部に使用届が提出されると、薬剤師は患者様の状態や薬剤選択の理由、投与量の指示などを確認した後に抗菌薬を払い出します。

<抗菌薬の使用状況の把握>

院内感染で問題になる耐性菌の出現は、抗菌薬の誤った使い方が関与していることが明らかになっています。抗菌薬の使用状況を把握し、毎月行われる院内感染対策委員会で報告します。抗菌薬の使用に偏りや長期間継続等の問題が見られる場合には、委員会にて対応策を検討しています。

<消毒薬適正使用の推進>

感染症の発生を未然に防止するため、また発生した感染症がさらに広がらないように管理するためには消毒薬の適正使用も重要です。有効とされる濃度以下で使用していると、消毒効果が得られないばかりか消毒薬自体が細菌で汚染される危険があります。適切な消毒薬を適切な濃度・適切な方法で使用されるよう院内マニュアルを作成しています。



以上、医療の現場で感染防止に取り組んでいる ICT の一員として、根拠に基づいた院内感染制御の実施に向け、薬剤師の専門性を発揮すべく取り組んでいます。